

9 研究活動と研究環境

進捗状況報告

【9.1 研究環境】関西学院大学人文学会が発行する『人文論究』、文学研究科の各領域（研究室）が発行する紀要において、教員および大学院生・研究員が研究論文や研究成果を公表できるように環境が整えられている。『人文論究』第56巻2号（2006年9月）より投稿規定を改め、教員1人に対して同じ領域の大学院生・研究員2人が投稿できるようにしたが、これによって大学院生・研究員の論文投稿が増加してきた。

総合心理学専攻における学生・研究員・教員を対象とした実験や調査・臨床研究、および動物実験については、2006年度から当該専攻の教員を主要なメンバーとする委員会によって「人を対象とした臨床・調査・実験研究」倫理規程が整い、これに基づいて活発に実験等が行われている。

文学部本館の閉館時間が授業終了時（18時30分）なので、本館に共同研究室をもつ各領域では授業終了後に研究室を利用できない。大学院生の研究環境を充実させるために閉館時間延長の具体的な方策を検討する必要がある。

【9.2 研究活動】文学研究科の専任教員が2007年度に発表した著書は22冊、論文は43篇（内、レフェリー付き論文は22篇）である。また、学会発表、調査報告、書評などのその他の業績は64件に及ぶ。2007年度の科学研究費助成金の助成状況は、採択9件、補助額19,300,000円であった。これは、2005年度（3件、6,600,000円）、2006年度（2件、2,800,000円）と比較して採択件数、補助額ともに大幅な伸びを示しており、活発に研究活動が行われていることを示している。

文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（学術フロンティア推進事業：2002年度～2006年度）として採択された総合心理学専攻心理学領域を中心とした「先端技術による応用心理科学研究」は、「実証心理学の産業と臨床への応用」という課題で2007年度以降も継続が認められた。この研究成果は2007年度に、英文によるレフェリー付き国際学術雑誌に論文、プロシーディングなどの形で20件余り掲載されている。また、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（産学連携研究推進事業：2003年度～2007年度）に採択されている文化歴史学専攻美学芸術学領域を中心とした「江戸時代の小袖に関する復元的研究」は、2007年度に最終年度を迎え、同名の報告書（CD-ROM付き）が2008年3月に出版され、また研究成果報告会が同じく2008年3月に開催され、併せて成果の一端である実際に作成された4領の小袖の展示会が大阪梅田キャンパスで開かれた。この研究は外部評価においても、外部評価委員全員のA評価を得た。

学内第三者評価

大学院生・研究員の成果の公表については、文学研究科として可能な方策が採られており、成果も見られ始めている。また専任教員による研究成果については、活発な研究活動を反映していると認められる。

なお、2007年度学内第三者評価にもあるように、大学院生の研究成果に関するデータを正確に把握することが望まれる。

— 以下全学共通 —

研究成果の発表状況について以下の表のとおりであることに留意されたい。

学部	年度	著書	論文	レフェリー付論文	学会報告	学術発表	翻訳	調査報告	書評	評論	事典	辞典	講演	招待講演	特許取得	特許出願
	2001	28	59	14	18	1	5	1	10	1	0	3	6	3	0	0
	2002	28	67	22	25	0	3	3	3	4	2	3	7	3	0	0
文学部	2003	29	55	20	34	4	4	3	7	2	1	1	4	9	0	0
	2004	18	55	15	34	0	0	0	10	3	1	4	6	6	0	0
	2005	29	68	12	27	0	7	0	4	1	1	0	3	1	0	0
	2006	22	34	19	41	0	2	0	5	1	1	0	2	3	0	0
	2007	22	21	22	30	13	3	1	7	1	1	0	4	4	0	0
計		176	359	124	209	18	24	8	46	13	7	11	32	29	0	0

（基本的な指標データNo9211、「関西学院大学研究業績データベース」に登録されている件数）